

国境を越えた映画復元： 「リュミエール・プロジェクト」の成果 (Part3)

安澤 秀太
Hideta Yasuzawa

連載：
フィルム・アーカイブ
の諸問題
第11回

リュミエール・プロジェクトを紹介する論文の最終回となる本文は、復元映画のリストの続きとともに、ヨーロッパ映画総目録の内容および失われた映画の国境を越えた探索についても説明する。(H.O.)

カサノヴァ(アレクサンドル・ヴォルコフ監督、1927年)

(承前)

題名	原題	監督	製作年	製作国	復元を行ったアーカイブ
[イベリア映画(スペイン・ポルトガルの合作)・2作品]					
ベアトリスのマンティラ	A MANTILHA DE BEATRIZ	エドゥアルド・ガルシア・マロート	1946	スペイン/ ポルトガル	(ポルトガル版) シネマテカ・ポルチュゲザ(リスボン)、フィルム テカ・エスパニョーラ(マドリッド)
明日も今日のように	MAÑANA COMO HOY	マリアーノ・ボンボ	1946	スペイン	(スペイン版)
[イタリア短編映画(1910-15)・9作品]					
アグリッピーナ	AGRIPPINA	エンリコ・グアッツォーニ	1911	イタリア	不完全版200m(オリジナル=379m) チネテカ・デル・フリウリ(ジェモーナ)、ドイツ・キ ネマテーク財団(ベルリン)、ドイツ連邦アーカイ ヴ/フィルム・アルヒーフ(コブレンツ)
[ダム君の計略]	[ASTUZIA DI ROBINET]	アンブロジーオ社製作	1911	イタリア	105m(オリジナル=126m)
宣誓	UN GIURAMENTO	チネス社製作	1914	イタリア	不完全版200m(オリジナル=565m)
クリ・クリとチェッコ 美人 コンテストの巻	KRI KRI E CHECCO AL CONCORSO DI BELLEZZA	チネス社製作	1913	イタリア	114m(オリジナル=135m)
[クリ・クリ 玉子騒動]	[KRI KRI E LA POLVERE D'UOVO]	チネス社製作	1913	イタリア	
謎のスーツケース	[DER MISTERIÖSE KOFFER]	チェンタウロ・フィルム社 製作	1912	イタリア	
タルタリンと5人のフラン ス人	TARTARIN E I CINQUE FRANCHI	チェンタウロ・フィルム社 製作	1911	イタリア	
トン君の催眠術	TONTOLINI IPNOTIZZATO	チネス社製作	1910	イタリア	149m(オリジナル=163m)
[不幸の石]	[DER UNGLÜKSSTEIN]	サヴォイア・フィルム社製 作	1915?	イタリア	
[イタリア・ドキュメンタリー映画(1948-1952)・4作品(トーキー)]					
子供たち	BAMBINI	フランチェスコ・マゼッリ	1951	イタリア	チネテカ・デル・コム・ネ・ディ・ポローニャ(ポローニャ)、シネマテーク・フランセーズ(パ リ)
少年声優	BAMBINI DOPPIATORI	ダミアノ・ダミアーニ	1952	イタリア	
真実の血	IL SIERO DELLA VERITÀ	ディーノ・リージ	1949	イタリア	
危険地帯	ZONA PERICOLOSA	フランチェスコ・マゼッリ	1952	イタリア	
ジョン・ヘリオットの妻	JOHN HERIOT'S WIFE	B・E・ドクサ・ピラット	1920	オランダ	NFTVA(ロンドン)、オランダ映画博物館(アムステルダム)、映画博物館(ロンドン)
さまよえるユダヤ人	LE JUIF ERRANT	リュイツ=モラー	1926	フランス	シネマテーク・フランセーズ(パリ)、チネテカ・デル・コム・ネ・ディ・ポローニャ(ポローニ ャ)
幸福の長靴	LYKKENS GALOSCHER	グンナー・ソマーフェルト	1919	デンマーク	デンマーク映画博物館(コペンハーゲン)、フランス国立映画センター/アルシーヴ・デ ュ・フィルム(ボワ・ダルシー)
[アキレス・マドラスの2作品]					
アテネの魔術師	MAGOS TIS ATHINAS	アキレス・マドラス	1922-31	ギリシャ	ギリシャ・フィルム・アーカイブ(アテネ)、チネテカ・デル・コム・ネ・ディ・ポローニャ(ポ ローニャ)
マリア・ペンタヨティッサ	MARIA PENTAYOTISSA	アキレス・マドラス	1926	ギリシャ	
大地の産物	MARKENS GRØDE	グンナー・ソマーフェルト	1921	ノルウェー	ノルウェー映画協会(オスロ)、オランダ映画博物館(アムステルダム)
王女エレナ	PRINCESS ELENA	ホルガー=マッソン	1913	デンマーク	デンマーク映画博物館(コペンハーゲン)、ドイツ・キネマテーク財団(ベルリン)
踊る殿下(解放されたウ ィーン/ヴィクトリア公妃 ホテル)	SEINE HOHEIT, DER EINTÄNZER (DAS ENTFESSELTE WIEN/HOTEL ERZHERZOGIN VIKTORIA)	カール・ライター	1927	オースト リア	オーストリア国立フィルム・アーカイブ(ウィーン)、ドイツ・キネマテーク財団(ベルリン)
[ハンガリー・サイレント映画2作品]					
山の麓で	HEGYEK ALJÁN	ベラ・バロー	1920	ハンガリー	ハンガリー映画協会(ブダペスト)、オランダ映画博物館(アムステルダム)
勇者ヤノシュ	JÁNOS VITÉZ	アルフレド・ディーシー	1924	ハンガリー	
[バルンシア 復元プロジェクト・4作品]					

題名	原題	監督	製作年	製作国	復元を行ったアーカイヴ
モルテの花嫁	SPOSA NELLA MORTE!	エミリオ・ギオーネ	1915	イタリア	フィルモテカ・バレンシアアーナ(バレンシア)、チネテカ・デル・コムーネ・ディ・ポローニャ(ポローニャ)
おてんば娘	MASCHIETTA	アルトゥーロ・アンブロジーオ	1921	イタリア	
ザモラの結婚	POR FIN SE CASA ZAMORA	ベビン・フェルナンデス	1927	スペイン	
子供たちの命令	LOS HIJOS MANDAN	アントニオ・フェリー	1930	スペイン	
【特殊現像・特殊規格】					
[キネマカラー作品の復元・短編23本]					チネテカ・デル・コムーネ・ディ・ポローニャ(ポローニャ)、NFTVA(ロンドン)、アルキヴィオ・チネマトグラフィコ・アンサルド(ジェノヴァ)[作業進行中]
[古き良き日：19世紀末の68mmフィルムの復元 オランダ映画博物館・138作品／NFTVA・48作品]					オランダ映画博物館(アムステルダム)、NFTVA(ロンドン)
[28mmパテ・コックフィルムの復元・57作品]					フランス国立映画センター/アルシーヴ・デュ・フィルム(ボワ・ダルシー)、ドイツ・キネマテーク財団(ベルリン)
【国際的評価を待ちながら】					
[カミーユ・ドゥ・モルロン作品]	[Camille De Morlhon]	オランダ映画博物館(アムステルダム)、フランス国立映画センター/アルシーヴ・デュ・フィルム(ボワ・ダルシー)			
[オランダ映画博物館復元作品・8作品]					
スマレのブーケ	LE BOUQUET DE VIOULETES	バテ社製作	1910	フランス	山鷲(アルフレッド・ヒッチコック監督、1926年)
アンリ三世の陰謀	UNE CONSPIRATION SOUS HENRI III	バテ社製作	1911	フランス	
漁師の息子	LE FILS DU PECHEUR	バテ社製作	1910	フランス	
放蕩息子	LE FILS PRODIGE	バテ社製作	1912	フランス	
タリアン夫人	MADAME TALLIEN	バテ社製作	1911	フランス	
うっかり紳士	MONSIEUR DISTRAIT	バテ社製作	1909	フランス	
バビロンの女王	SEMIRAMIS	セリエ・ダール・バテ・フレール社製作	1910	フランス	
カピリアの復讐	VENGEANCE KABYLE	バテ社製作	1912	フランス	
[フランス国立映画センター復元作品・11作品]					
マリー・アントワネットの秘密の冒険	AVENTURE SECRETE DE MARIE-ANTOINETTE, UNE	セリエ・ダール・バテ・フレール社製作	1910	フランス	
ブリタニクス	BRITANICUS	フィルム・ヴァレック社製作	1912	フランス	
カリオストロ	CAGLIOSTRO	セリエ・ダール・バテ・フレール社製作	1910	フランス	
ドン・キホーテ	DON QUICHOTTE	バテ社製作	1912	フランス	
任務遂行中	EN MISSION	バテ社製作	1912	フランス	協力：シネマテーク・フランセーズ(パリ)
1812年のエピソード	UN EPISODE DE 1812	セリエ・ダール・バテ・フレール社製作	1910	フランス	(28mmプロジェクト)
鉄仮面の男 フーケ	FOUQUET, L'HOMME AU MASQUE DE FER	セリエ・ダール・バテ・フレール社製作	1910	フランス	(28mmプロジェクト)
他人の失態	L'INFAMIE D'UN AUTRE	フィルム・ヴァレック社製作	1914	フランス	(チネテカ・イタリアーナ所蔵の初期フランス映画プロジェクト)
宮中の暗闘(宮中の悪計)	INTRIGUE A LA COUR D'HENRI VIII, UNE	バテ社製作	1911	フランス	
薔薇売りの女	LA MARCHANDE DE ROSES	バテ社製作	1911	フランス	
バビロンの女王	SEMIRAMIS	セリエ・ダール・バテ・フレール社製作	1910	フランス	(完全版)
[アントニオ・カンポスの短編8ミリ作品・2作品]					
宝物	UM TESOIRO		1958	ポルトガル	シネマテカ・ポルチュゲザ(リスボン)、オランダ映画博物館(アムステルダム)
ご主人	O SENHOR		1959	ポルトガル	
セント・ポールのカルメン(墮落)	DIE CARMEN VON ST. PAULI (GESTRANDET)	エリッヒ・ヴァッシュネック	1928	ドイツ	ベルギー王立シネマテーク(ブリュッセル)、ドイツ連邦アーカイヴ/フィルム・アルヒーフ(ベルリン+コブレンツ)
牧神	IL FAUNO	フェーボ・マリ	1917	イタリア	ベルギー王立シネマテーク(ブリュッセル)、チネテカ・デル・フリウリ(ジェモーナ)、トリノ国立映画博物館(トリノ)
インドの墓 第1部ヨギの手紙 第2部エシュナプールの虎	DAS INDISCHE GRABMAL Part 1: DIE SENDUNG DES YOGHI Part 2: DER TIGER VON ESCHNAPUR	ヨーエ・マイ	1921	ドイツ	ミュンヘン映画博物館(ミュンヘン)、フランス国立映画センター/アルシーヴ・デュ・フィルム(ボワ・ダルシー)、ドイツ連邦アーカイヴ/フィルム・アルヒーフ(コブレンツ)
I.N.R.I. 人類の破滅	I.N.R.I.-DIE KATASTROPHIE EINES VOLKES	ルートヴィッヒ・ベック	1920	ドイツ	ベルギー王立シネマテーク(ブリュッセル)、ドイツ連邦アーカイヴ/フィルム・アルヒーフ(ベルリン)
マチステの地獄征伐	MACISTE ALL'INFERNO	グイド・プリニョーネ	1926	イタリア	チネテカ・デル・コムーネ・ディ・ポローニャ(ポローニャ)、デンマーク映画博物館(コペンハーゲン)
船	LA NAVE	ガブリエリーノ・ダマンツィオ	1921	イタリア	チネテカ・デル・コムーネ・ディ・ポローニャ(ポローニャ)、チネテカ・イタリアーナ(ミラノ)
[ベニート・ペローヨの3作品]					
不幸な女	LA SIN VENTURA	E・B・ドナシアン(監督)ベニート・ペローヨ(製作)	1924	フランス/スペイン	フランス国立映画センター/アルシーヴ・デュ・フィルム(ボワ・ダルシー)、フィルモテカ・エスパニョーラ(マドリド)
白い魂を持った黒人	EL NEGRO QUE TENÍA EL ALMA BLANCA	ベニート・ペローヨ	製作：1926 公開：1927	フランス/スペイン	

題名	原題	監督	製作年	製作国	復元を行ったアーカイヴ
ワイン醸造所	LA BODEGA	ベニート・ペローヨ	1929	フランス/ スペイン	
かつら	DIE PERÜCKE	ベルトルト・フィールテル	1924	ドイツ	オランダ映画博物館(アムステルダム)、ミュンヘン映画館(ミュンヘン)
ウィーンで一番の幸せ者	L'UOMO PIÙ ALLEGRO DI VIENNA	アムレート・バルレルミ	1925	イタリア	チネテカ・デル・フリウリ(ジェモナ)、ハンガリー映画協会(ブダペスト)
消えた女	DIE VERSCHWUNDENE FRAU	カール・ライター	1929	オーストリア	ベルギー王立シネマテーク(ブリュッセル)、オーストリア国立フィルム・アーカイヴ(ウィーン)
愛のさまざまな顔	I VOLTI DELL'AMORE	カルミネ・ガローネ	1924	イタリア	チネテカ・デル・コム・ネ・ディ・ポローニャ(ポローニャ)、デンマーク映画博物館(コペンハーゲン)
ワテルロー	WATERLOO	カール・グルーネ	1928	ドイツ	ベルギー王立シネマテーク(ブリュッセル)、ルクセンブルク市立シネマテーク(ルクセンブルク)、シネマテーク・スイス(ローザンヌ)
【アニメーションの魔術】					
カリフ・ストーク	KALIF STORCH	ハンス・ベルガー/ランデイスラフス・ツシュチンスキー	1921	オーストリア	ドイツ映画研究所/フィルム・アーカイヴ(ヴィースバーデン)、ルクセンブルク市立シネマテーク(ルクセンブルク)
【サイレント映画：連続もの】					
謎の巴里(全10篇)	PARIS MISTERIEUX (10 Episodes)	ルイ・パリエリ	1921	フランス	ベルギー王立シネマテーク(ブリュッセル)、シネマテーク・フランセーズ(パリ)
灰色の鼠(全8篇)	I TOPI GRIGI (8 Episodes)	エミリオ・ギオーネ	1918	イタリア	チネテカ・デル・コム・ネ・ディ・ポローニャ(ポローニャ)、ベルギー王立シネマテーク(ブリュッセル)、チネテカ・イタリアーナ(ミラノ)
【トーキー移行期の映画】					
羊飼いの愛人	O AGAPITIKOS TIS VOSKOPOLAS	ディミトリス・ツァクリス	1931	ギリシャ	ギリシャ・フィルム・アーカイヴ(アテネ)、ドイツ・キネマテーク財団(ベルリン)
アルフの絨毯	ALF'S CARPET	W・B・ケリーノ	1929	イギリス	NFTVA(ロンドン)、デンマーク映画博物館(コペンハーゲン)
【トーキー移行期のドイツ映画・2作品】					
仮面(恐怖の夜)	MASKEN (DIE NACHT DER ANGST)	ルドルフ・マイナー	1929	ドイツ	チネテカ・デル・コム・ネ・ディ・ポローニャ(ポローニャ)、ドイツ連邦アーカイヴ/フィルム・アルヒーフ(コブレンツ)、フィルモテカ・バレンシアーナ(バレンシア)
あなたのことを決して忘れない女(ひと)がいる	ES GIBT EINE FRAU, DIE DICH NIEMALS VERGISST	レオ・ミットラー	1930	ドイツ	

3. ヨーロッパ映画総目録

ヨーロッパ映画総カタログ(The Joint European Filmography: JEF)はリュミエール・プロジェクトによって1992年に着手され、21世紀にも継続される予定の深遠なデータベース構築プロジェクトだ(監修ジェフリー・ノエル・スミス)。ヨーロッパ各国のフィルム・アーカイヴや映画博物館等の組織・機関は長年に渡り自国の映画作品のカタログ化につとめてきたし、時にはすばらしい目録を発刊してもきた。しかしながら、ヨーロッパというひとつの地域をくりとしてそうした情報を統合した単一目録の作成が試みられることはなかった。ヨーロッパの映画界が国単位に独立したもので、それぞれ国内向けの作品を製作している限りにおいては、それでも問題はなかったのである。ところがヨーロッパの統合が進む中で、数ヶ国を市場とするヨーロッパ各国の合作が増えるにつれ、国単位での映画目録では不十分なものとなってきた。またコンピュータの進歩によって、10年前には不可能に思われたことも実現可能になった。そこで各国の情報を統合した単一のデータベースを作成し、映画誕生期から現在にいたるヨーロッパの映画作品の総目録を書籍とCD-ROMの形で発行・頒布しようという気運が高まったのである。

1992年の春に行われた予備調査は、いくつかの問題点を浮かび上がらせた。まず、各国の既存の記録そのものが不完全であるケースが多いこと。また、国によって(あるいはその中の機関ごとに)、記録情報の項目・記述方法等がばらばらであること(特に合作作品におい

てその相違が顕著である)。すべてのアーカイヴがコンピュータの導入を完了していたわけではなく、完了している場合でも使用プログラムが各アーカイヴによって異なっていた。

しかしながら、95年までの期限プロジェクトというリュミエール・プロジェクトの財政的制限から、92年春に始まった予備調査が7月には初期調査へとステップアップし、同年秋にはリュミエール・プロジェクトの正式プロジェクトとして発足した。その過程でヨーロッパ映画総目録は各作品の概要データのみ収録を旨とし、より詳細なデータに関しては各国アーカイヴの原資料への照会を明示するにとどめることが決定された。さらに、もともと既存のデータが整備されている劇映画の目録作成を当初行い、ドキュメンタリー映画その他は順次目録化を行うことになった。また、リュミエール・プロジェクトの性質から、扱う作品はEU加盟国またはMEDIAプログラムに参加している国の作品に限定された。つまり、ヨーロッパ映画総目録にはスイス、トルコそしてハンガリーを除く旧東側諸国作品は収録されていない。

ヨーロッパ映画総目録の特色は、それが単純な各アーカイヴの所蔵作品のカタログ化ではないことだろう。現存あるいは遺失の如何を問わずヨーロッパで製作された全作品をリスト化することが主眼である。そのためには信頼性に疑問が残るが、スタジオの年間製作予定表や配給業者のカタログあるいは検閲記録や当時の映画評が、目録作成の情報源として採用された。さらに言えば、ヨーロッパ映画総目録は個々の作品データを供給するためのもではなく、ある作品(プリント)が間違いなく

その題名の作品であることを確認するためのものである。

こうした条件を考慮し各国フィルム・アーカイヴ代表による何回かの会合をへて、93年9月にヨーロッパ映画総目録の最終的な収集項目が決定した(下記一覧)。なお該当データの無い、あるいは現時点では判明しない項目は空欄でもかまわない。

0.1<i>	作品番号
1.0<it>	作品題名
1.1<st>	索引題名
1.2<tr>	訳題
1.3<at>	異題(複数可)
1.4<dt>	配給題名(複数可)
2.0<n>	製作国
2.1<pc>	製作会社
2.2<sp>	出資会社/助成機関
2.3<r>	監督
2.4<s>	サイレント/サウンド
2.5<la>	言語
2.6<bc>	白黒/カラー
2.7<g>	フィルム・サイズ/フォーマット
2.8.1<l>	メートル数
2.8.2<mn>	上映時間(分)
2.8.3<rl>	巻数
2.9<ca>	分類(劇映画/ドキュメンタリー/アニメーション/連続物)
3.0<y>	年
3.1<p>	製作年
3.2<z>	検閲年月日
3.3<c>	著作権登録年月日
3.4<sc>	初上映年月日
3.5<re>	劇場公開年月日
3.6<tv>	TV初放映年月日
4.0<v>	ビデオ発売年月日
4.1<sr>	原資料

4.2<nt> 備考

ここで簡単に主要な項目について解説しておこう。

作品題名<it>は最終的にヨーロッパ映画総目録で与えられた正式題名である。大部分の作品については、製作国において最初に公開された時の題名がそのまま当てはまる。索引題名<st>は題名に数字や略語を含むものをアルファベット順に並び変えるための項目で、たとえばフェリーニの「8 $\frac{1}{2}$ 」はOTTO E MEZZOとなり、Oでも検索できるようにするためのものである。異題<at>は作品が合作であったり、公開時期によって題名が変えられたりして流通している「オリジナル題名」に準ずる題名が当てはまる。また他国における作品題名<it>以外の公開題名は配給題名<dt>となる。つまりマックス・オフルスの「ローラ・モンテス」は仏独合作で撮影はドイツで行われたが、主たる製作国はフランスであるため、作品題名<it>はフランス版の「LOLA MONTEZ」となり、ドイツ版題名の「LOLA MONTEZ」は異題<at>となる。そして英国における公開題名「THE FALL OF LOLA MONTEZ」は配給題名<dt>となるわけだ。作品題名にフランス版が採用されたことで、「ローラ・モンテス」に付随するその他の項目もフランス版をもとに記入されることになる(上映時間やパリの公開日時等)。技術的な制約もあり、現在のヨーロッパ映画総目録ではドイツ版や大幅にカットされた英国版の情報は別項目を作らずに備考欄に付記するのみとなっている。また監督名の表記も問題のひとつである。特にヨーロッパからアメリカに渡った監督は自国での表記とアメリカでの表記が異なることが多い。これも原則的にはフィルム・クレジットの表記を採用し、異名を括弧で括ることで対応している。

4. 失われた作品を探して

各国のフィルム・アーカイヴが直面している大きな問題のひとつが断片的なフッテージあるいはタイトル・ロールやクレジット・ロールを欠いた作品の扱いだ。こうした題名不明のフィルムはえてして倉庫の隅に追いやられ、忘れ去られがちであった。しかし、1935年以前の映画作品の8割近くが遺失している現在、これらのフィルムの題名を確認することは、失われたと思われていた作品の発見にもつながる重要な作業なのだ。リュミエール・プロジェクトでは所蔵作品の復元作業とともに、題名不明のフィルムの確認を共同プロジェクトとして行うことで成果を上げることができた。

まず「失われた作品」事務局がチネテカ・ディ・ボローニャ内に設置され、各国アーカイヴから持ちよられたリストをもとにリュミエール・プロジェクトの「失われた作品」リストが作成された。それから大量の未確認フィルムを所蔵するアーカイヴへの巡礼が始まったのである。こうして発見された作品は前述したように約650本にのぼる。

ここでは「失われた作品」事務局がまとめた

未確認フィルムの題名判別のための手引きを簡単に紹介する。

フィルム缶 フィルムがオリジナルの缶に収められている場合、缶そのものが貴重な情報源となる。

フィルム・ロール ロールの両側をまず見ること。白黒/カラー/着色が判別できる。フィルムがイーストマンカラーなら1952年以降の作品。着色フィルムならば1930年以前の作品と考えられる。

リーダー サウンド・フィルムにはたいがいリーダー・フィルムがついている(年代判別)。オリジナルのリーダーがついている場合は、作品題名・リール番号・製作会社または配給会社の名前・現像所名が記されていることがある。旧東側諸国の作品は、通常リーダー部分に製作国を示す表示がついている。

クレジット オリジナルのクレジット・タイトルが付いていれば、もちろんここで調査は終わる。外国作品の場合、1910-1920年の作品なら、その題名が原題の直訳であることが多い。ヨーロッパ映画ならヨーロッパ映画総目録をあたる。あるいは二、三人の俳優の名前が記されているのなら、彼らのフィルモグラフィーを辿ることもできる。問題は映画初期から1910年頃までの作品で、まったく別の作品のタイトルが繋がれていることがある。サイレント作品におけるこのような改竄を確認するのは困難だ。この時代の作品はシーン毎にフィルムを繋いでいることも多いので、タイトル部分の繋ぎの有無だけで判断することはできない。また繋がりがオリジナルのものではなくとも、映写中の事故によって、新たに繋ぎ直した可能性も捨てきれない。確実に判断を下せるのは、タイトルにスタジオの商標やロゴが含まれていて、字幕部分のそれが別のものであった場合だけだ。最も困るのは改竄された題名と作品内容が一部で一致している場合で、この場合判断を下すのは不可能に近い。

クレジットの無いフィルム まずフィルムの年代と製作国を判定することが重要。そのためにはフィルムのエッジ部分とフレーム内(つまり写っている映像)からできるだけ多くの情報を取り出すことである。

エッジ部分 ここから得られる情報は二つある。製作会社のマークとフィルムメーカーのマークだ。映画史の最初の20年間、違法コピーや贋作を阻止するために、主要な撮影所は非常に精密なマークを自社作品に記していた。また各製作会社は独自の現像方法を採用し、それらは企業秘密となっていたので、フィルムに残るそうした現像処理の痕跡から製作会社特定することができる。こうした撮影所や製作会社のマークについては、ハロルド・ブラウン著「Physical Characteristics of Early Films(初期の映画の物理的特徴)」(ブリュッセル：1990年FIAP刊)に詳しい(特にフランスとイタリア映画)。

フレーム内の情報 字幕には製作会社あるいは

は配給会社の名前が入っていることがある。また映像に現われる文字も製作国を限定する重要なヒントとなる(店の名前、新聞、通りの名称)。最も大切なことは、なんとか出演者を特定することだ。俳優名が分かれば95%は題名を特定することができる。しかし映画史初期に活躍した俳優は今となっては判別しにくい場合が多い。そのためにはアーカイヴの図書資料(特に当時の雑誌)を丹念に当たり、当時活躍した俳優の顔を覚えることが必要だ。

最後に現在も探索の続けられている「失われた映画」の例をいくつか掲げることにする(この中には断片として存在が確認されているものも含まれている)。英国映画ではマイケル・パウエルとジーン・キートンの1930年代の諸作品やアルフレッド・ヒッチコックの「山鷲(The Mountain Eagle)」(1926年)など。アメリカ映画ではD・W・グリフィスの「竜巻(That Royal Girl)」(1925年)、トッド・ブラウニングの「真夜中過ぎのロンドン(London After Midnight)」(1927年)、ヴィクトル・シエストレームの「神のような女(The Divine Woman)」(1928年)、F・ムルナウの「四人の悪魔(Four Devils)」(1928年)、エーリヒ・フォン・シュトロハイムの「結婚行進曲 第二部 蜜月旅行(The Honeymoon: Part2 of The Wedding March)」(1928年)、エルンスト・ルビッチュの「愛国者(The Patriot)」(1928年)など。ドイツ映画ではフリッツ・ラングの処女作「混血女(Halbblut)」(1919年)を始めムルナウ、ルビッチュのドイツ時代の諸作品など。フランス映画ではジャン・エプスタンの短篇ドキュメンタリー「不実の山(La Montagne infidèle)」(1923年)、グロリア・スワンソン主演のレオンス・ペレの「ありし日のナポレオン(Madame Sans-Gêne)」(1925年)、マルセル・レルピエの「一夜の女(La Femme d'une Nuit)」(1930年)、マックス・オフルスの「裏切られた男(On a volé un homme)」(1933年)など。

5. 結び

フィルム・アーカイヴでの復元・作品の確認作業においては、作品目録が決定的な基礎資料となる。その意味でもこれまで述べてきたリュミエール・プロジェクトにおけるヨーロッパ映画総目録のような目録の世界規模での整備が急務といえよう。またこうしたプロジェクトは個々のフィルム・アーカイヴが単独で行えるものでもない。リュミエール・プロジェクトの成果はヨーロッパのみならず世界規模での共同作業が、映画保存のためには必要とされていることを明白に物語っている。■ (客員研究員)